

# 大神楽1敗堅守

# 紙相撲新聞

第160回本場所  
八～九日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

## 千代鈴、夢ノ花、連敗で後退

## 西神門、剛勇山は1敗で並走

〔第百六十回本場所八日～九日目〕

秋も深まった11月18日に八日目と九日目が開催された。七日目まで一人7戦全勝で優勝争いの単独トップに立っていた平幕の夢ノ花が八日目に大関大神楽、九日目に平幕の西神門に連敗して全勝が消えた。

九日目を終えて、大関大神楽、平幕の西神門と剛勇山の3人が1敗、これを平幕の宇治家、夢ノ花の2人が2敗で追う展開となった。場所前に優勝候補筆頭に挙げられていた横綱千代鈴はまさかの連敗で3敗となり優勝争いから脱落した。



↑八日目、全勝の夢ノ花の挑戦を受けた大神楽。想定を上回る熱戦が展開、あと一步のところまで追い詰められたが、最後は地力の差を見せつけ、夢ノ花の独走を食い止めた。



↑八日目、関脇烏帽子岳に隙を与えず、一氣に寄り切り、初日から土つかずの8連勝。

夢ノ花は前頭七枚目ながら八日目は1敗の大関大神楽との対戦が

「花！ガンバレ！」との香具山親方の声援も届かず、西神門に寄り切られ、2敗に後退した。



夢ノ花●(寄り切り)○西神門

入幕4場所目の香具山部屋の夢ノ花は入幕してからの負け越しくなく勝ち越しを続けているものの、師匠の香具山親方は仕事が多忙でなかなか国技館に足を運ぶことができなかったこともあってかこれまでさほど話題に上ることがなかった。

しかし、今場所は星もさることながら、朝日松理事長に思わず「うまい！」と言わせるような技能相撲で白星を7つ重ね、七日目を終ってみれば全勝は夢ノ花一人という状況で一躍今場所の主役に躍り出た。香具山親方も弟子の活躍を送るため、9ヶ月ぶりに国技館に駆けつけた。

組まれた。大神楽は七日目に喜乃郷に引き落とされた黒星以外は早い相撲で相手を圧倒し、「今場所の優勝は大神楽か？」との声がかかる好調さ。

「大関の胸を借りるつもりで当たっていきます！」と夢ノ花。一方、全勝で初顔の夢ノ花に対し、磯ノ海親方は「夢ノ花はいい相撲を取っているだけに嫌だなあ！」と心配げ。

行司の軍配が返るや、香具山親方が「花！しっかり行け！」と檄を飛ばす。勝負がぶぶり四つの大相撲となり、夢ノ花が押し込む場面もあったが、最後は左を差した大神楽が夢ノ花を寄り切りに下した。

「いい相撲だったなあ！夢ノ花にも勝機があったけどなあ！」と錦風親方が大一番を振り返った。

夢ノ花は負けたとはいえ、まだ1敗。気持ちを切り替えて臨んだ九日目の相手は西神門。過去の対戦成績では夢ノ花の2敗と勝てていない相手。

八日目は過去の対戦成績で4勝とこれまでまったく相手にしていない関脇四季嶋。ところが、立合の踏み込みが甘く四季嶋に押し込まれ、そのまま土俵を割った。

「ええ」とまさかの結果に場内から大きな歓声が上がった。しかし、春日根親方にとって悪夢が続く。九日目はこちらも過去3勝と

千代鈴が左を差すも綱乃花に回り込まれ土俵に這っての引き落としで連敗を喫した。これで千代鈴は3敗となつて優勝争いから脱落。予想外の春日根親方を受けた春日根親方は取組後、千代鈴の身体の開き具合を念にチェックしていた。

「今場所こそは優勝して綱を目指す！」との決意で臨む大関大神楽はここまで6勝1敗。八日目は全勝の夢ノ花を大関の貫禄で退けると九日目は好調の関脇鉄甲との一番。

鉄甲は七日目までは大神楽と同じ6勝1敗で優勝争いに加わり、周囲から「鉄甲が勝間田部屋内での大関候補一番手か？」と一気に脚光を浴び始めた。注目される取組だったが、千代鈴が自分の相撲を取ってきた1敗を守った。千代鈴の優勝がなくなっただけに、こうなったら優勝するしかない。

千代鈴に続けとばりに春日根親方が肝入する西神門。稽古場の強い相撲そのままに二日目から白星を重ね、八日目は鹿富士、九日目は夢ノ花にも勝って8勝1敗。



千代鈴●(寄り切り)○四季嶋



綱乃花○(引き落とし)●千代鈴



大神楽○(寄り切り)●鉄甲